

20250529北海道社会教育セミナー

地域の担い手から創り手へ、 地域みんなでまちづくり

NPO法人おむすび
理事長 大畑伸幸

小学校教員8年
中学校教員10年
社会教育行政20年

六日市町教育委員会3年
匹見町教育委員会3年
益田市教育委員会5年
益田市教育委員会9年

市民活動22年目
ネイチャーキッズ寺子屋
新たな市民活動1年目
NPO法人 おむすび



人が幸せに生きるために大切なものは？

ハーバード大学の研究で・・・

724人を75年にわたり追跡調査

人を幸せにし、健康にするには・・・

何よりも良い人間関係

心のエンジンの駆動

他者との出会い

親の8割は
サラリーマン

偶発

多様な体験の機会(情報)を与える

萩石見空港⇔10分⇔市役所 ⇔90分⇔羽田空港



MASUDA CITY

島根県益田市

MASUDA CITY

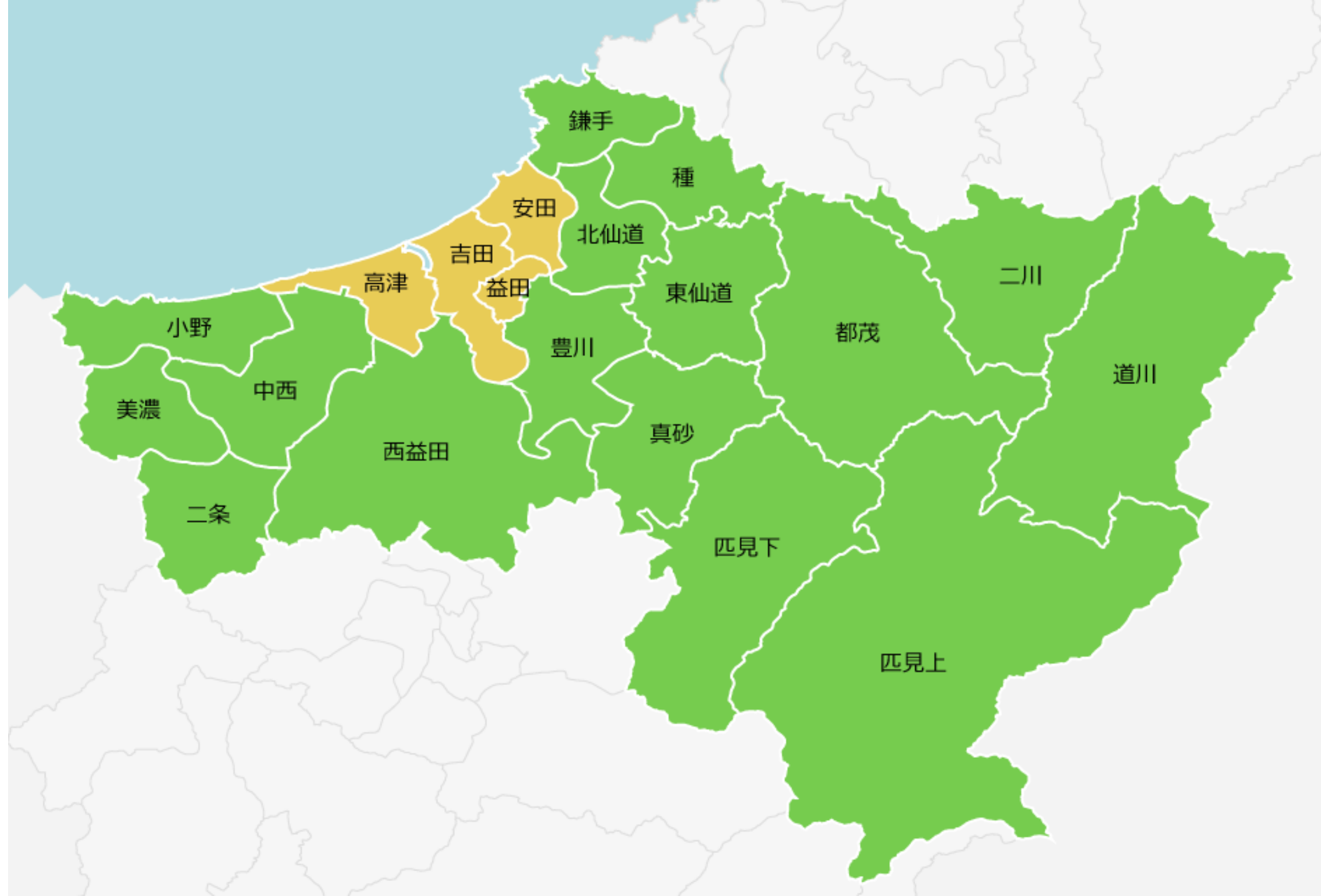


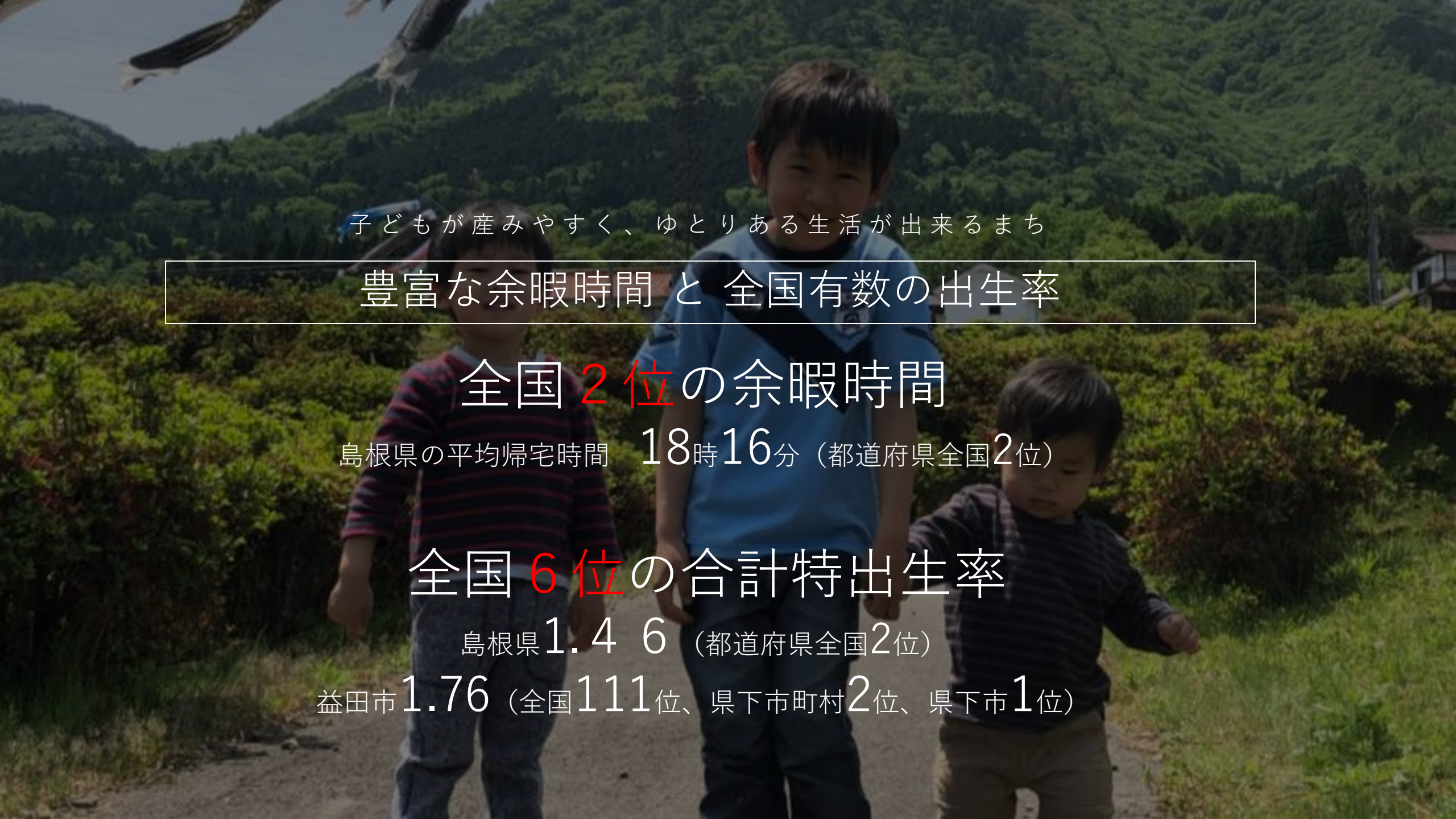
航空写真

Google

東京都23区（627km²）以上の面積 **733**km²のまち

島根県内 最大面積の中に、
20地区の集落 & **4万3000**人





子どもが産みやすく、ゆとりある生活が出来るまち

豊富な余暇時間 と 全国有数の出生率

全国 **2位** の余暇時間

島根県の平均帰宅時間 18時16分（都道府県全国2位）

全国 **6位** の合計特出生率

島根県 1.46（都道府県全国2位）

益田市 1.76（全国111位、県下市町村2位、県下市1位）

圧倒的な人口流出 と Uターンしない若者

高校卒業時に、**9割**の高校生が市外転出の実情

大学卒業後に、Uターンする若者**3割**の実情

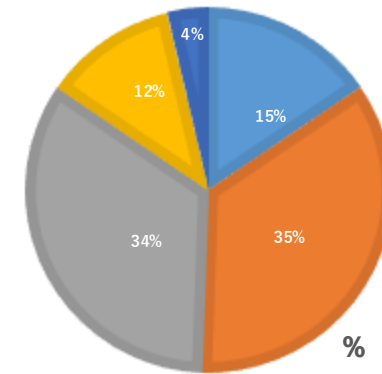
(出典 平成27年 益田市総合戦略)

益田市には「**なににもない**」と感覚的に答える子どもたち

【益田市には、「**なににもない**」】

51%
そ う 思 う 。

275人
544人中



■ とてもそう思う

■ ややそう思う

■ あまりそう思わない

■ 全くそう思わない

■ 無回答

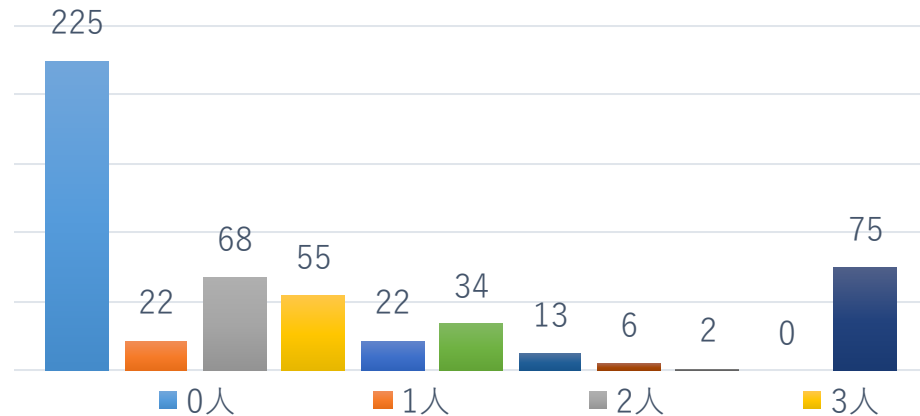
→ 都 会 の **リソースフルな環境への憧れ** を 醸 成

地域の大人と子どもが繋がれていない現実

【気軽に話をする事ができる、
地域の大人の人数】

225人
535人中

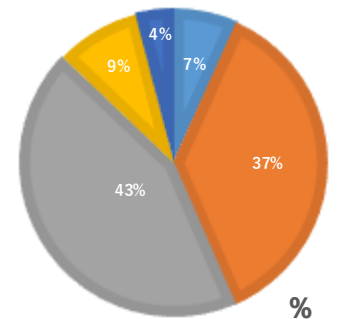
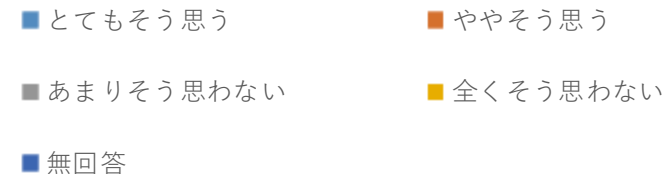
42%が、0人と回答



【益田市には魅力的な大人が多い】

282人
536人中

53%
そう思わない。



→ ロールモデルとの出会いがないまま大人へ

全国1位の豊富な余暇時間に裏付けされた、多様な足場・顔を持てる環境
ワークキャリアから、ライフキャリアの概念へ



(1)仕事の顔



(2)地域での顔



(3)趣味での顔



(4)家庭での顔



ライフキャリア教育で、未来をつくる

Hiroaki
Yamamoto



益田市長
山本浩章

ライフキャリア教育の背景・課題意識



進路
就職先
企業

ワークキャリア

+

人生観

どんな人になりたいか
何を大切にしたいか
生きがいは何か

(例) 人見知りを克服して、
積極的にいろんな人と話せるようになりたい。



ワークキャリアを包含したライフキャリア教育へ

- 保幼・小・中・高など、すべての年代を通じて、活動の軸に「ライフキャリアを体現しているひと（益田人100）」との出会いを位置づけるプログラム。
- 子どもたちが、各年代で出会いを積み重ね、出会いの輪を広げながら、目指す姿を達成する。

【目指す姿】

- 日々の目標に対し、能動的に生き、自らの可能性を広げることのできるひと

青年期

青年期

with

ロールモデルとの出会いを通し、価値観を広げ、心に灯をともし。

小学生期

about

地域について
知る・伝える

幼児期

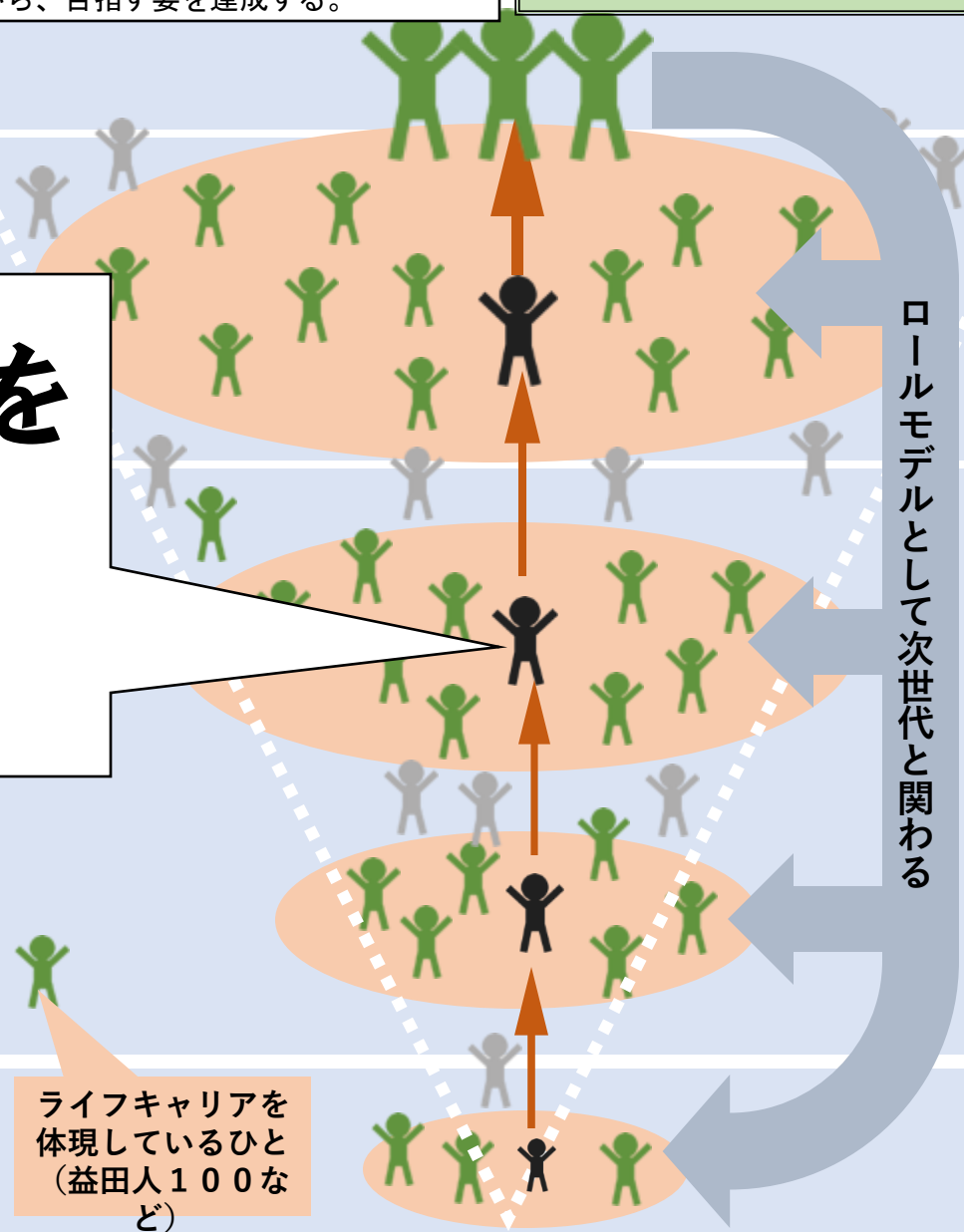
幼稚園
保育園

in

地域の中で
体験する・浸る

ライフキャリアを
体現しているひと
（益田人100など）

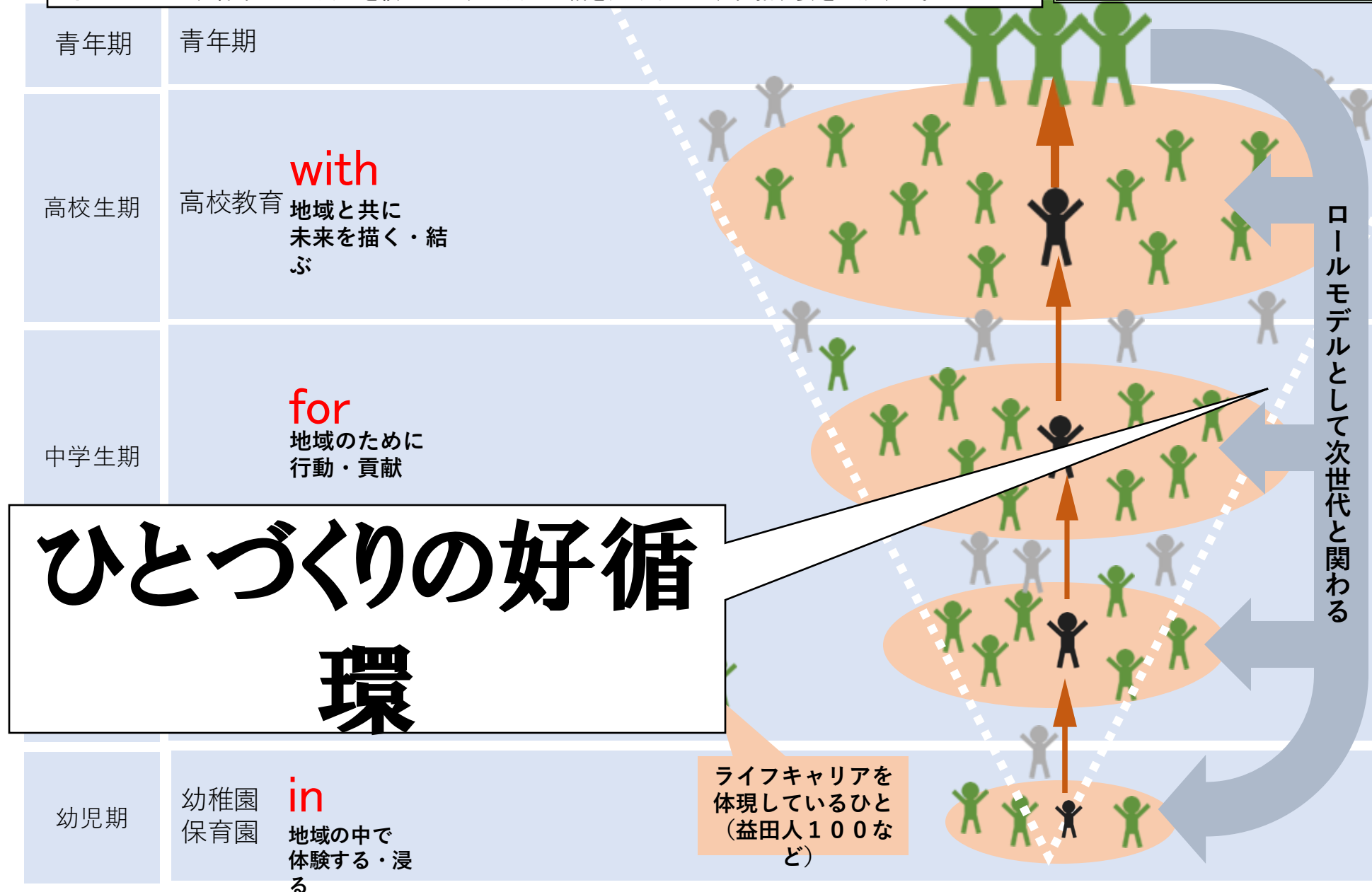
ロールモデルとして次世代と関わる



- 保幼・小・中・高など、すべての年代を通じて、活動の軸に「ライフキャリアを体現しているひと（益田人100）」との出会いを位置づけるプログラム。
- 子どもたちが、各年代で出会いを積み重ね、出会いの輪を広げながら、目指す姿を達成する。

【目指す姿】

- 日々の目標に対し、能動的に生き、自らの可能性を広げることのできるひと



ライフキャリア教育で大事にしていること

日々を前向きに生きている益田びととの

対 話

を通して、多様な価値観・生き方に触れる



益 田 版 カ タ リ 場

地域の大人とのつながりの一歩目
講演ではなく、1対1の対話

「カタリ場」とは？

高校生と首都圏の大学生が授業の中で語り合うキャリア学習プログラム。親や先生のようなタテの関係でもなく、友達のような横の関係でもない、ちょっと年上で利害関係のない「ナナメの関係」との対話がコンセプト。認定NPO法人カタリバが開発して、2001年度より首都圏を中心に展開されている。

[キーワード] #**大学生** #一回きりの「**ばいばい**」の**関係**だから話せること

「益田版カタリ場」とは？

地域の大人と子どもが1対1で対等に語り合い、これから「どんな大人になりたいか」生き方を考える授業です。人との繋がりが希薄な時代だからこそ、2時間の授業の中で本音で話し合うことによって、子どもと地域の大人が繋がり、その後も気軽に話し合える関係になります。

[キーワード] #**地域の大人** #「**またね**」の**関係**づくり





小 学 校 で 高 校 生 と 語 り 、



中 学 校 で 地 域 の 大 人 と 語 り 、



高 校 で 働 く 大 人 と 語 り 、



高 校 卒 業 前 に 、 小 学 生 に 語 る 。

益田版カタリ場の種類

小学校カタリ場

小学生 × 高校生



「思春期」を終えた高校生から、これから「思春期」の小学生へ

● 卒業前の高校3年生とこれから中学生の小学5-6年生によるカタリ場

● 小学生が、中学・高校生活の未来のイメージを描くことができる

● カタリ場を受けてきた高校生は、学業生活を終える最後に、自分が語り手として、小学生に語る

中学校カタリ場

中学生 × 地域の大人



「挨拶」の関係から、「相談」の関係へ

● 中学校区の地域の大人と中学生によるカタリ場

● 公民館と連携をして、地域の担い手がカタリ場に参加

● 地域で会う機会があるからこそ、しっかり関係をつくり、その後の地域での活動づくりのきっかけへ

高校カタリ場

高校生 × 企業の大人



ちょっと年上の先輩と、ちょっと先の未来を描く

● 社会人の若手や大学生と高校生によるカタリ場

● 市内企業と連携をして、若手職員がカタリ場に参加

● 住んでいる地区を超えて、多様な大人との繋がりづくり、活動づくりのきっかけへ

カタリ場からの活動の広がり

高校生の活動

例 ミライツクル
プログラム
「高校生カケル」



地域の大人の活動

○ミライツクル
プログラムへの参加



地域の大人の活動

○ライブラリマル
シェへの参加



地域の大人の活動

○新・職場体験へ
の参加



地域の大人の活動

○オモイをカタチ
にワークショップ



地域の大人の活動

○公民館活動への
参加

カタリバ参加キャスト



地域で子どもと共に活動する伴走者へ

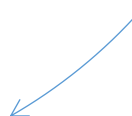
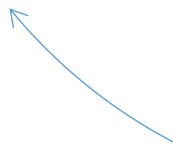
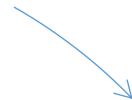
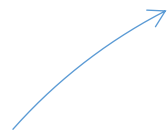
つながる

他者が必要

まずは対話から

安心して話せる場

楽しいことをつくる



公民館を拠点とした、中学生地域活動チーム



【 北 仙 道 地 区 】
陽光会



【 豊 川 地 区 】
とよかわっしょい



【 匹 見 3 地 区 】
匹中会

→ **公民館職員による仕掛け&伴走**

地域での活動



9 中学校区

20 地区

学校外での活動の広がり

将来に対して明るい希望を持っていますか？

82%

日本の平均54% @アメリカ並

あなたのことを応援してくれる大人が周りにいると感じますか？

91%

@2024年 益田市中高生アンケートより

将来、益田市に住みたい？！

2018年成人式
50%

2019年成人式
69%

2023年成人式
83%

益田市には、魅力的な大人が多い？！

2018年成人式
51%

2019年成人式
70%

2023年成人式
90%

何もないまちから

何でもつくることのできるまちへ

町の幸福論_{より}

東京書籍 6 年生国語



学校での学び と
地域での実践 (社会教育)
の **往還** を！

国語科 (説明文の学習)



総合的な学習の時間
(イキカタズカン)



国語科 (プレゼンテーションの学習)



学校行事 (学習発表会)



社会教育 (まちづくり団体の事業)

イキカタ・ズカン 総合的な学習の時間

連携先：公民館・教育委員会

◆地域の大人や高校生と「暮らし」と「幸せ」を考える！



まちの幸福論 国語科

連携先：公民館・教育委員会・市役所



◆自分たちのプロジェクトを
公民館、教育委員会、市役所
の皆さんと一緒にブラッシュ
アップ！

学習発表会 学校行事

連携先：公民館・PTA
・まちづくり団体



まちづくりプロジェクト

公民館 & まちづくり団体事業
(社会教育)

連携先：公民館・まちづくり団体



◆ 公民館で
地域の人々と作戦会議！



①学年の半分の児童が参加

②公民館がまちづくり団体につなぐ

③まちづくり団体がこの事業を主催

④来年度は、公民館文化祭と重ねる予定





2023.11.12

マッシュマロトーク

～柔らかい発想で
会話を弾ませよう～

中学生6人、高校生2人、大学生1人、社
会教育コーディネーター3人、大人5人

中学生たちが、「学校の外にはこんな場所があるんだ」と思える機会があると、学校生活も安定するのではないかという思いから企画したイベントで、みんながそう思えたかはわからなかった。でも、少なくとも学校の中では出会うことのできない人と話した経験は、みんなにとって自信につながるのではないかと思った。

近年「サードプレイス」が流行していて、市内でも様々な場所がその役目を果たしている中、私自信改めてその意義を考えるきっかけになった。企画をしていく中で、目で見ることにはできないが、ゆりさん（公民館主事）やななみさん（社会教育コーディネーター）との空間が私にとってのサードプレイスになっているように感じた。

市外の高校に通い、イベントで久しぶりに高津川を眺めた私にとって、マシュマロトークはまさにセカンドプレイスから離れたサードプレイスだった。教室の窓から毎日川や海を眺め、山の間を縫って学校に通っているが、同じ「川」と「山」なのに西益田の自然を見た時はすごく安心した。それは、「半年前までずっと見ていたから」ではなくて、「地域の人がいるから」感じた安心感だと思う。

数年前までこの地域に生まれたことを後悔していた自分にとってはすごく大きな変化だ。私は今大学に行くために勉強をしていて、そのためには2年後必ず益田市を離れないといけない。大学生になっても、実家に帰った時はきっと同じような安心感を持つと思う。

今地域が抱える過疎問題は、「定住」を得るだけが解決策ではなく、そこが誰にとっての広い意味でのサードプレイスになれることでもあるのではないだろうか。たくさんの方が「あってほしい」と願う場所は、廃れることはないと思う。帰りたくなる場所になれば、今は1日2本しか飛ばない飛行機の本数が増える感もしれない。そうすれば市外出身者も益田に来やすくなり、ここが彼らのサードプレイスになりうる。車を持たない彼らが利用するであろうバスや電車の本数が増えたら、それは運転ができなくなった市内の高齢者にとって大きな助けになるだろう。それはまさに、子どもから大人までが「住みやすいまち」なのではないか。

マシュマロトークを通して、そんな未来が見えた気がした。そのためには、益田市に生まれた子どもたちが小・中学生時代に地域の人と触れ、楽しい思い出を作ることが必要だ。これからもマシュマロトークのように柔らかい発想で、自分にできることを考えていきたい。

近頃の子どもはあいさつせんの～

顔を知っている子ども数

名前を知っている子どもの数

話をしたことのある子どもの数

吉田
地区

何にもしない合宿

遊ぶ のんびりする 寝る ただそれだけ!

申し込みフォーム



参加費
100円

2/17(土)・18(日)

18:30 ~ 翌7:30

- 場所 益田市立 水防センター(益州市中島町) 交通アクセス→
- 対象 吉田地区小学生(吉田小学校、吉田南小学校)
(1、2年生の参加については就寝まで保護者の付き添いをお願いします)
- 集合時間 18:30~20:30までの間にお越しください。
※消灯時刻は21:00、翌日7:30解散
- 持ち物 参加費100円、うわばき、寝袋等の寝具(床が固いのでマットなども推奨)
その他、水筒、パジャマ、着替え(汗かいた時用)など、必要なもの
- 申し込み 上記QRコードより受付
- ルール

ケンカをしない ケガをしない
スマートフォンや携帯ゲーム等を持ち込まない
※カードゲームやボードゲーム等の持ち込みはOKです。

■その他

- ・食事等の提供は一切ありません。(食事や入浴を済ませてお越しください)
- ・迎えが必要な場合は翌朝の7:30までをお願いします。
- ・保護者・地域の皆さんの参加大歓迎です!申し込みフォームからお知らせください。スタッフとしての参加となります。
- ・緊急の連絡についてはこちらまでお願いします。(事務局携帯 090-1174-6550)

「何にもしない合宿」は、文字通り特別なことは何にもしないで、ただ集い、遊び、ゆるやかにつながる場です。関わる大人も特別な準備はしません。気軽に楽しく参加できる場にしましょう😊

主催 吉田地区何にもしない合宿実行委員会

共催 吉田公民館

問い合わせ: taen99859@gmail.com / 090-1174-6550

遊ぶ のんびり 寝る

子どもも大人も共に!

静岡県裾野市
小田圭介さん発案



わいわい広場



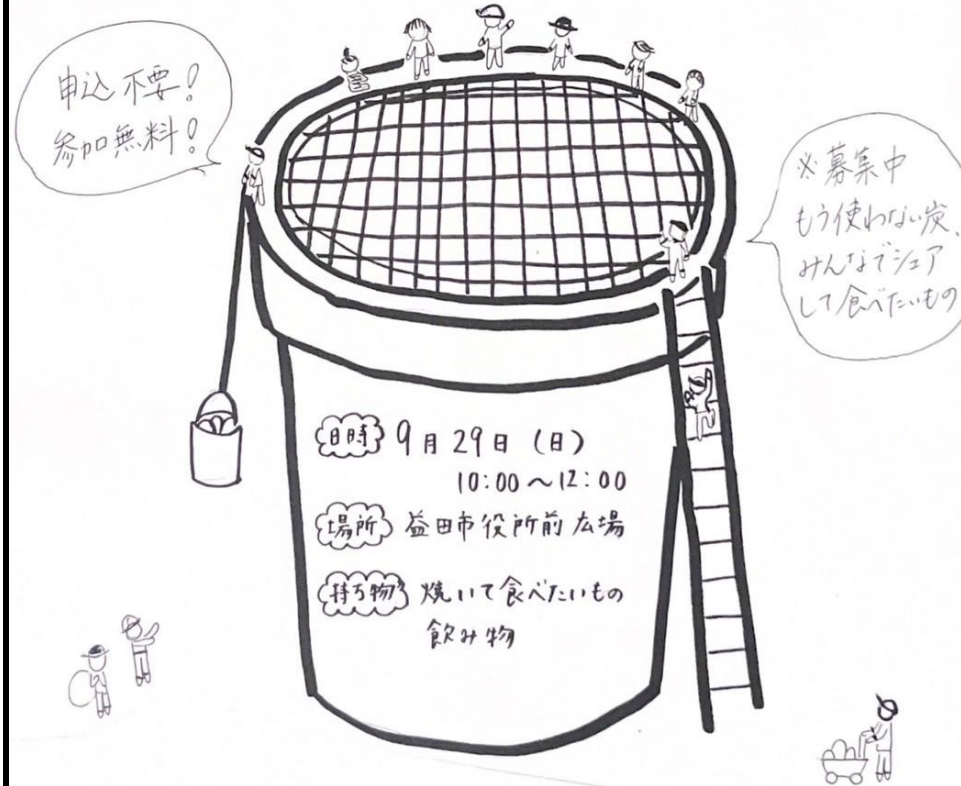
「やってみたい」のエネルギー

「つくる」楽しさ

もちより七輪の会

～ゆるっと夏じまい～

余った炭、余った野菜、
語り余った思い出、ありませんか？



市民広場実行委員会
(080-4412-6225)

ひとまずやってみよう！
ミニの場 9月29日10時～

わいわい広場 第1回目 9月29日

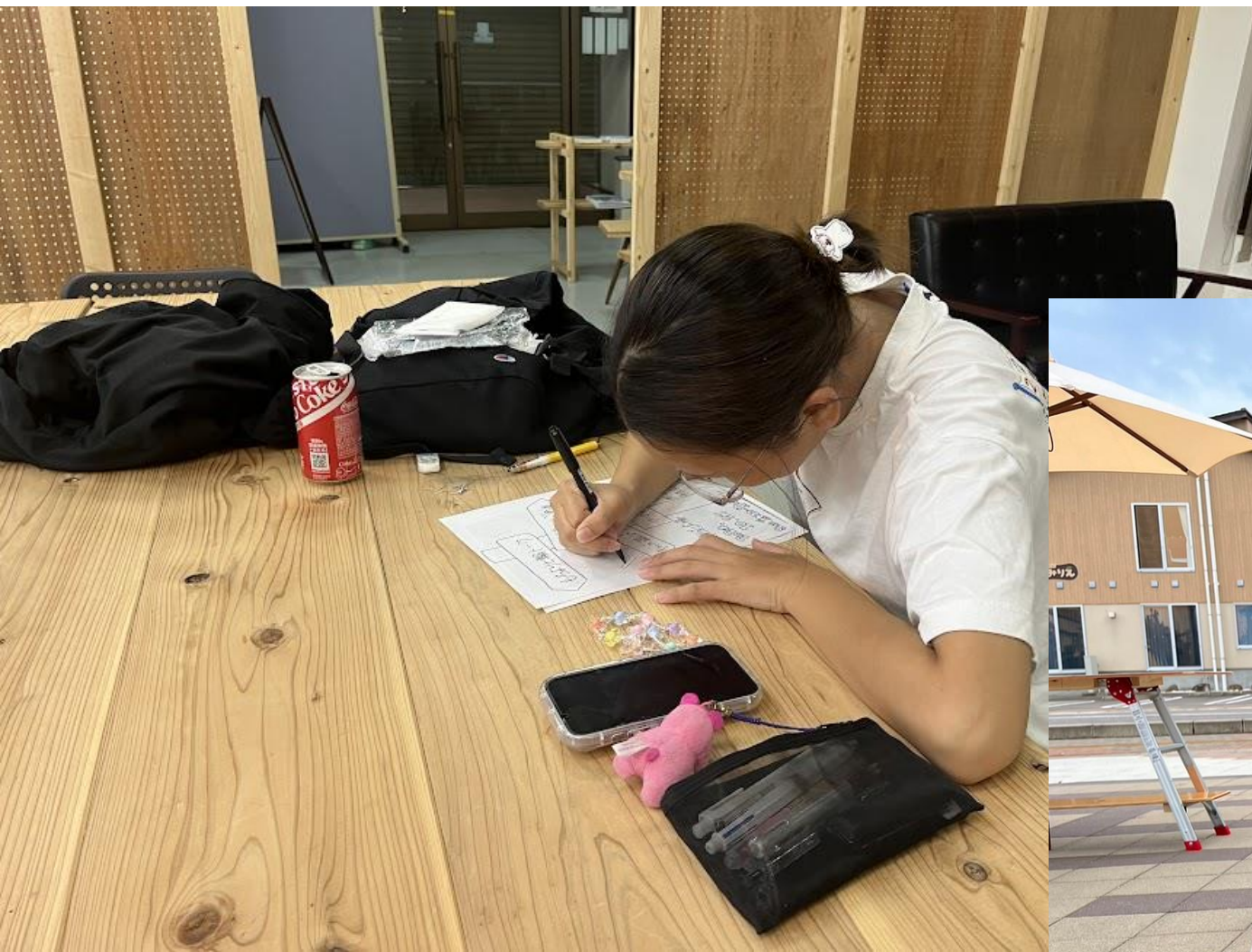


わいわい広場
第1回目 9月29日





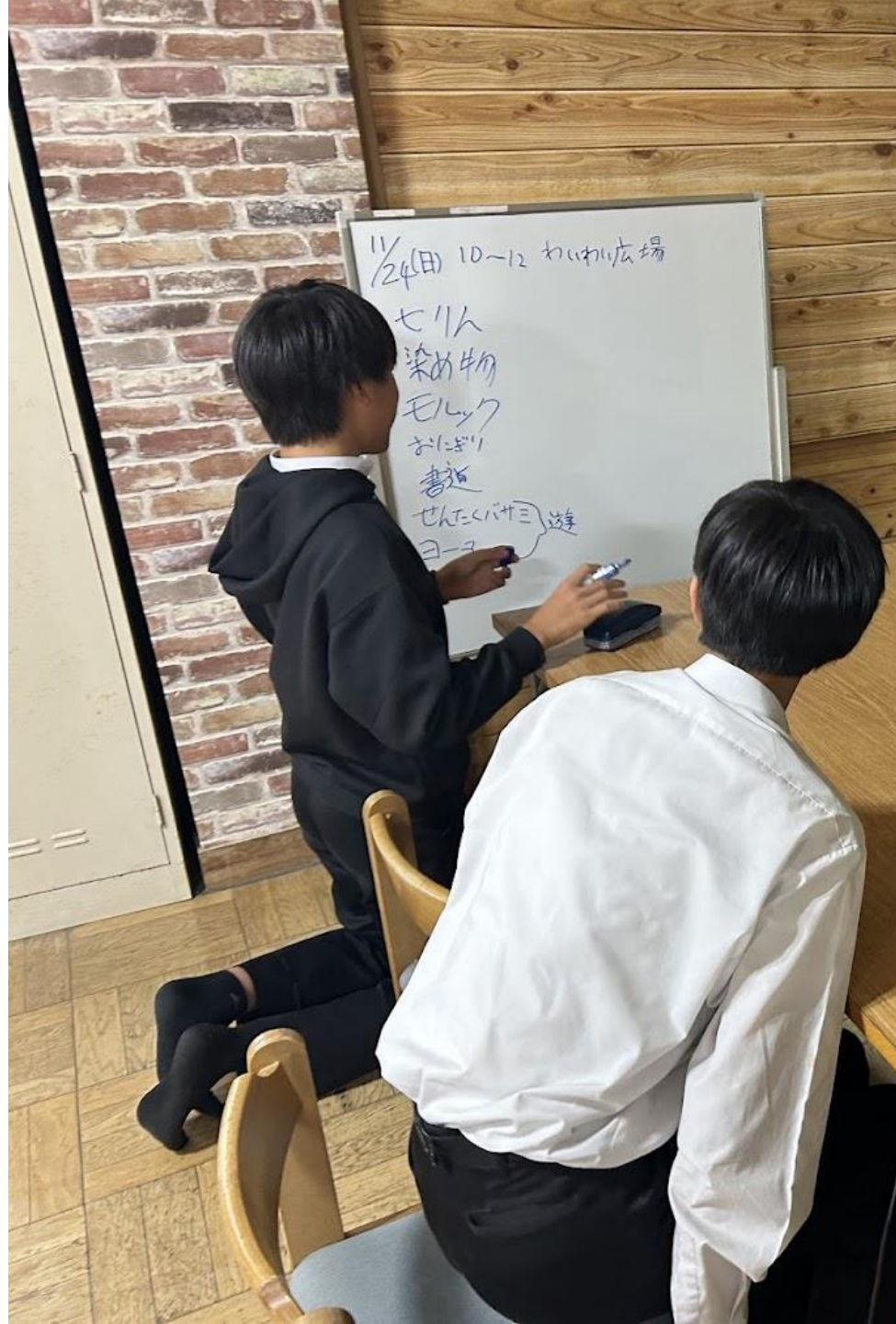
「一緒にやってもいいよ」



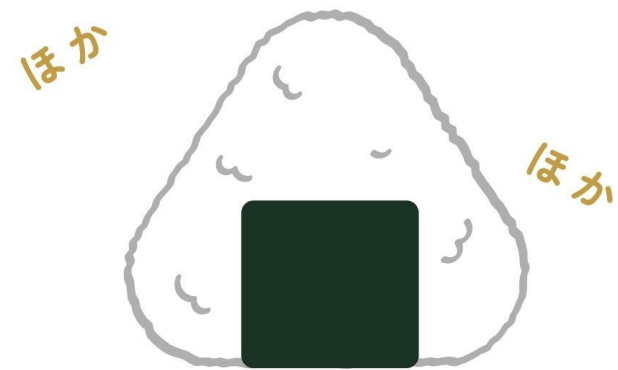
第2回目 10月27日



「次、おにぎり屋やりたい」



炊き立てごはんで
おにぎり
つくりませんか



おにぎりの具持参OK！

無料

年齢制限なし

2024.11.24

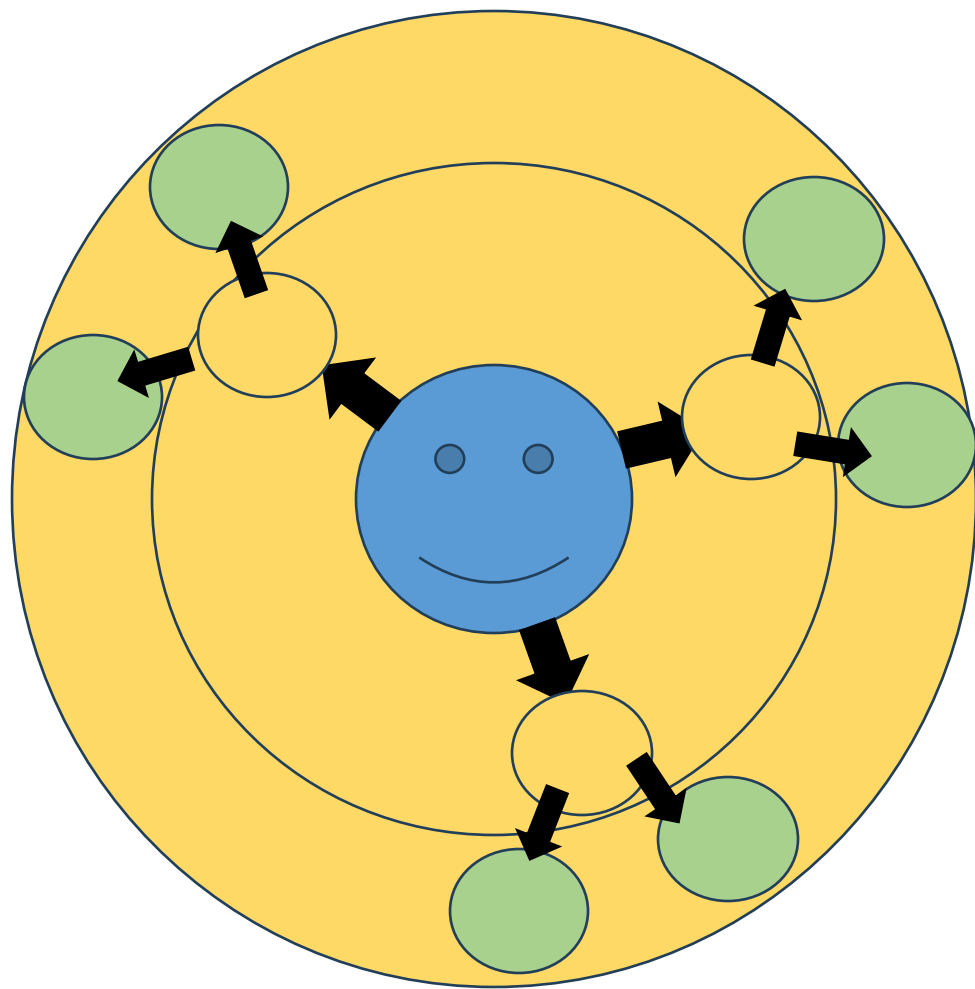
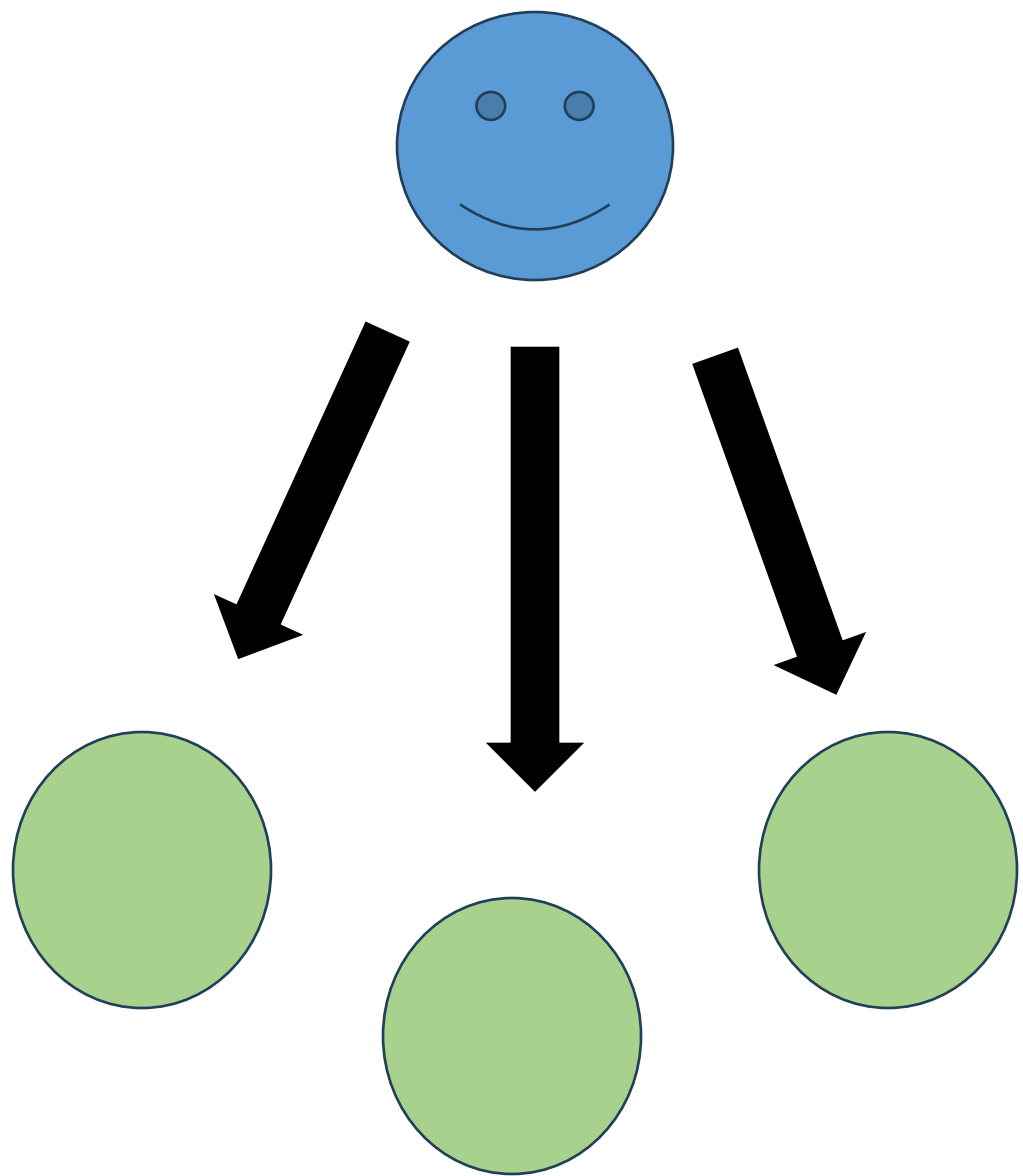
わいわい広場実行委員会

10:00～12:00 @市役所前広場
おにぎりリーダー 南目 蓮





一緒に作る



参加者



参画者

人のつながり

「つくる」楽しさ

「私」を主語にする

どーせむり

いいねいいね

「やってみたい」を生むために

いつの間にか... おもしろそう

誰でも... できそう

何しても... 大丈夫そう

失敗しても... 何とかかなりそう

■関連情報

やる気ラボ



FNNプライムオンライン



社会教育士note



大正大学
地域構想研究所



社会教育の再設計



熊本エデュケーション
ウィーク



Spotify ポッドキャスト配信中!!

<番組タイトル>

**のぶBOSSの
音の寺子屋**

アプリをダウンロードしなくても
お気軽に聴けます。



2	新しい自治の担い手の育成——公民館構想の想い	46
3	構想と現実と——公民館構想の継承と変容と	39
4	公民館が欲しくてたまらなかった——住民の想い	34

第二章 ひとが育つまち 55

- 1 日本社会の縮図——「ひとが育つまち」の原点……
- 2 まちは「ひと」——語りあう子どもとおとなたち……
- 3 まちで子どもを育む——子育てする地域の仕組みづくり……
- 4 迷走から一本化へ——地域運営の核としての公民館へ……
- 5 「ひとを育てるまち」から「ひとが育つまち」へ——「ひとづくり」を行政の基本方針に……
- 6 学びと地域貢献を重ねる——公民館を仲立ちに結びつく地域と学校……
- 7 ほしい未来は、自分たちでつくる——地域がつくる子どもたちの学びと生き方……
- 8 子どもたちの躍動——公民館化する地域と学校……
- 9 人的に代謝する地域へ——子どもおとなまちづくりの主体者となる……

第三章 「農的な生活」の自治論 137

- 1 生きるを分けあう——「共居」のまちづくり……
- 2 博打をとるか、麻薬をとるか——プロジェクトの背景……
- 3 「多能工」になる「農的な生活」——プロジェクトの背景……
- 4 自分をまっすぐ見てくれる——躍動する移住した若者たち……
- 5 他人の人生を買っている——この社会のおかしさ、苦しさ……
- 6 「おいしい」は「楽しい」——私たちが見落としてきたもの……
- 7 違っているのにつながっている……
- 8 自治……
- 10 子どもが担う地域の活動——子どもの人生に寄り添う地域……
- 11 地域をかきまわす移住者たち——インターン者が増えるまちへ……
- 12 ひとはみずから育ち、まちを育てる——やりたいことが溢れ出るまち……

牧野 篤〔著〕

公民館を再発明する

小さな社会を
たくさんつくる ③

「ほしい未来を自分たちでつくる」場へ

全国の「コミュニティ」に、「コンビ」や学校はなくとも、公民館・公民館的なものはある。地域の住民が、移住者が、「だれか」が、自分たちの未来の「コミュニティ」を自分たちでつくる場を再発明するヒントにあふれた本。歴史をふりかえり、海外にも飛びながら考える公民館の未来。

東京大学出版会